

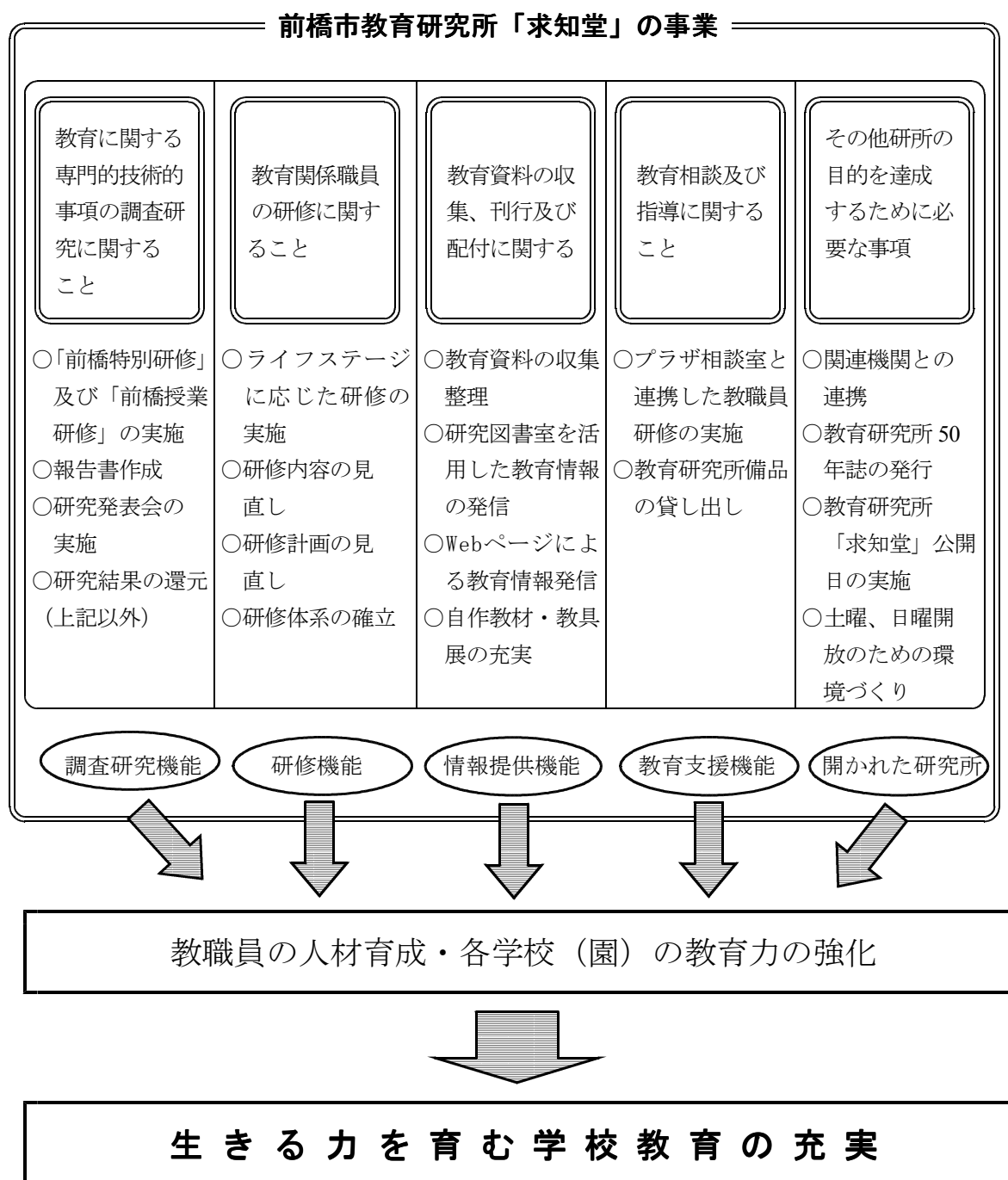
#### IV 教育研究 新たな一歩

# 平成21年度教育研究所運営方針

## 1 基本方針

「生きる力」を育む学校教育の充実のため、本市の教育課題の調査研究、教職員のライフステージに応じた研修、教育情報の収集と発信、教育支援等に関する事業を行う。また、中核市移行に伴い、法定研修を中心とした教職員研修事業を拡充する。

## 2 運営構想



# 平成21年度教育研究所事業

## 1 専門的技術的事項の調査研究に関すること

### (1) 前橋特別研修における実践的な研究

#### ① 研究の領域と主題

本年度より開始した前橋特別研修では、下記の研究領域、研究主題で研究を進めている。

研究領域	研究主題	研究員
国語	自分の思いや考えを表現する児童の育成 －相手意識・目的意識の明確化と 指導事項の具体化を通して－	和地孝之 教諭 (中央小)
道徳	道徳教育推進教師のコーディネートの在り方 －「花いっぱい活動」を生かした 道徳授業づくり－	島崎数也 教諭 (第二中)
総合的な 学習の時間	探究活動に主体的に取り組む児童の育成 －総合的な学習の時間の単元 「われら あらまキッズ」の構想と実践を通して－	茂木千恵子教諭 (荒牧小)
特別活動	一人一人の児童に自己有用感を高める 学級経営の工夫 －学級への貢献を実感できる 清掃活動を通して－	西田知子 教諭 (元総社小)
生徒指導 ・教育相談	特別な支援を必要とする生徒のための 「あたたかくて、わかりやすい」授業づくりの工夫 －ユニバーサルデザインの発想を 取り入れた国語科の授業を通して－	宮崎俊一 教諭 (元総社中)

#### ② 研修日数 4月～3月 25日

### (2) 前橋授業研修における実践的な研究

研究領域	研究主題	研究員
国語	読む能力を高める国語科の授業 －互いの考えを交流する活動を通して－	佐藤直樹 教諭(大胡小学校) 杉木利之 教諭(中川小学校) 折田貴美子 教諭(広瀬中学校)

社会 算数 理科	活用する力を高める指導方法の工夫 －思考力・判断力・表現力を育成する言語 活動を充実させて－	黛正人 教諭(城東小学校) 森田香保里 教諭(原小学校) 久保学 教諭(桂萱中学校) 日暮利明 教諭(新田小学校) 田中規王 教諭(若宮小学校)
道徳	自他のよさに気づかせる道徳の時間の充実 －交流の場の工夫を通して－	山川智恵子 教諭(宮城小学校) 木部佳子 教諭(東小学校)

② 研修回数 5月～3月 25回(15:30～17:00)

### (3) プロジェクト「人間関係づくり」

#### ① 研究の主題

児童生徒の人間関係づくりを促す指導の工夫  
… 教師のかかわりと児童生徒の反応が見える実践事例を中心に …

#### ② 主題設定の理由

学校には、いろいろなタイプに児童生徒が在籍し、それぞれの性格や特性、育ってきた環境はきわめて多様になっている。個人が抱える悩みや困難の状況も様々で、学校生活によく適応できない児童生徒も増加している。

不登校やいじめ、万引き、対児童生徒または対教師暴力など、児童生徒の不適応行動については、適切な指導により早期発見・早期解決が図られてきている。そして、児童生徒の不適応行動の理解と対応を一層充実させ、事前的・予防的側面に立つ望ましい人間関係づくりを促す指導の工夫が強く求められている。

そこで、「人間関係づくり推進プラン“きずな”」の活用状況やその課題を調査し、すべての学校で望ましい人間関係づくりを促す指導に資することが大切であると考え、本研究協議題を設定した。

#### ③ 研究の内容

- 望ましい人間関係づくりにかかわる指導の実態についての調査
- 望ましい人間関係づくりにかかわる指導の実践事例の収集

#### ④ 研究の計画

- 7月 希望研修「絆を深める学級担任の知恵袋」を通じて、望ましい人間関係づくりにかかわる指導の実態について調査する。
- 2月 特別活動主任会役員の協力を得て、望ましい人間関係づくりにかかわる指導の実態について調査する。

#### ⑤ 研究の方法

研修担当係長の指導の下、教育研究所指導主事5名が中心となって、特別活動主任会役員の協力を得て、望ましい人間関係づくりにかかわる調査を行う。

#### (4) 研修の改善充実に生かす研修効果の測定に関する研究

##### ① 研究の主題

教職員研修の改善に生かす効果測定工夫  
… 研修効果の「見える化」と実施の「省力化」に向けて …

##### ② 主題設定の理由

真に必要とされる研修をより効果的に実施していくために、教育研究所が実施している教職員研修についてその効果を見取り、収集し、整理分析を通して改善の方向を明らかにしながら着実に取り組むことが大切であると考え、本研究協議題を設定した。

##### ③ 研究の内容

- 研修効果がより明確になる測定（調査）方法にかかわる調査と開発
  - ・研修の改善に必要な情報と調査対象者の選定
  - ・調査内容・項目の吟味と決定
  - ・調査実施講座の選定と実施時期の調整
- 継続的に取り組める研修効果の測定（調査）方法にかかわる調査と開発
  - ・S Q S利用による調査用紙の様式や記入方法の統一化、処理の高速化
- 測定を生かした研修の改善方針の明確化とその取組

##### ④ 研究の計画

- 5月14日 部内での検討（方針、調査項目等確認）
- 5月下旬 各研修講座で試行的に調査を開始
- 8月中旬 調査項目や方法について検討し、実施方針や方法等について確認
- 9月～ 関東地区の教育研修機関に調査を依頼
- 10月～1月 調査結果の収集、整理、分析、まとめ

##### ⑤ 研究の方法

教育研究所長の指導の下、研修担当係長及び教育研究所指導主事5名が、教職員研修の改善に生かす効果測定にかかわる調査研究を行う。

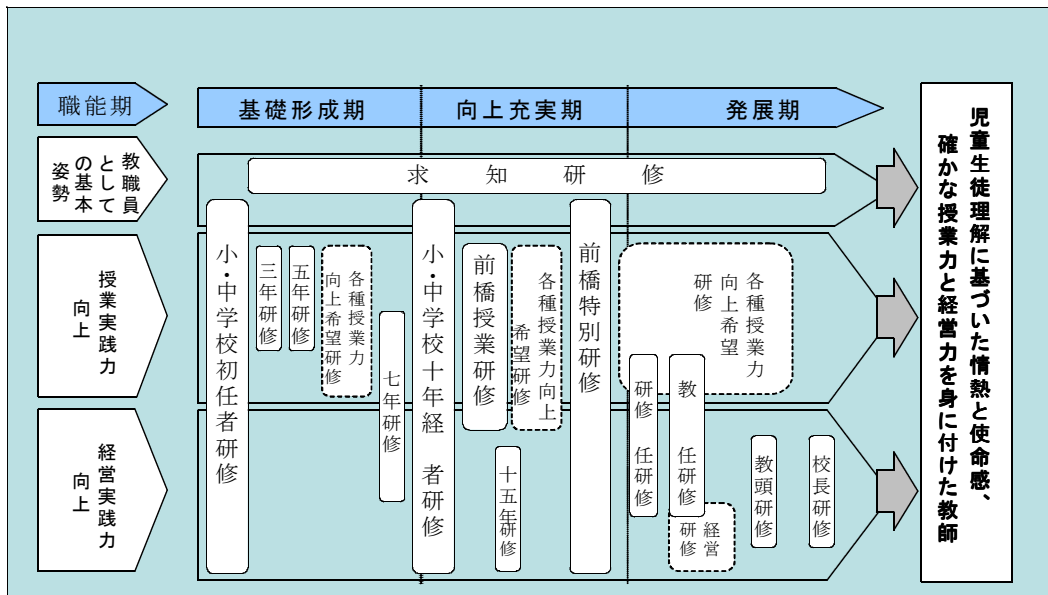
##### ⑥ 備考

本研究は、本教育研究所が所属する平成21年度関東地区教育研究所連盟市区町村特別委員会における調査研究として本年度末に報告する予定でいる。

## 2 教育関係職員の研修に関すること

### (1) 教職員のライフステージに応じた研修の実施

一人一人の教職員が歩むそれぞれの経験年数や職務、自身の課題に応じ研修を行えるように、教職員のライフステージに応じた研修計画を立案した。本年度は、各研修を実施しながら、それぞれの研修に参加した受講者の意見を取り入れつつ、研修内容を見直し、研修計画をさらに充実したものとする。

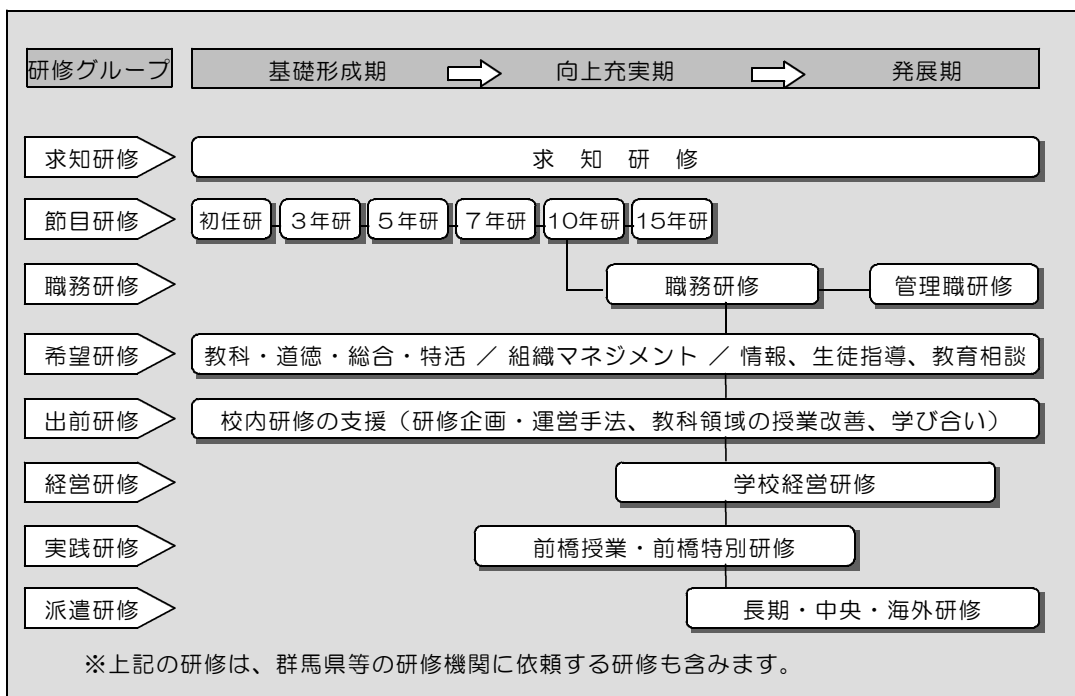


## (2) 教職員研修体系の確立

研修効果を高めるために、教職員自身が研修意欲を高め、主体的に参加できるようにしたいと考えた。そのためには、教職員が自分自身の課題意識をもち、向上意欲をより強くもつことが大切である。また、教職員自身が、教職員研修全体像を概観でき、自身に現在必要な研修、自身の力量を形成していくために今後どの研修に参加することが大切であるかを判断できるようにしたいと考えた。

本年度は、各研修を実施しながら、それぞれの研修に参加した受講者の実態等に基づき、教職員研修体系を見直し、確立していく。

### 【平成21年度の前橋市教職員研修体系図】









力と学校経営参画能力を高め、次世代教育を創造する人材を育成する。	
----------------------------------	--

### 3 教育資料の収集、刊行及び配布に関すること

#### (1) 教育資料の収集整理

以下の教育資料について、収集・分類・整理し、閲覧や展示できるようにする。

- 旧富士見村に保存してある教育資料
- 教育資料館に保管されている資料
- 各学校に保存されている学校で作成された教育資料  
(主に教科別研修の学習指導案、指導資料等)
- 研究図書室を活用した教育情報の発信

#### (2) Webページによる教育情報発信

中核市として生まれ変わった教育研究所における教職員研修の考え方や研修内容の周知等

#### (3) 自作教材・教具展の充実

応募者の拡大と、広く市民の観覧を図れるように、広報を充実させるとともに、展示方法を工夫する。

今年度は、以下のように、自作教材・教具展を企画する。

- 期間 平成22年1月8日(金)～2月8日(月)
- 会場 前橋市総合教育プラザ  
3階の教育資料館展示室及び1階のアメニティーラウンジ

### 4 教育相談及び指導に関すること

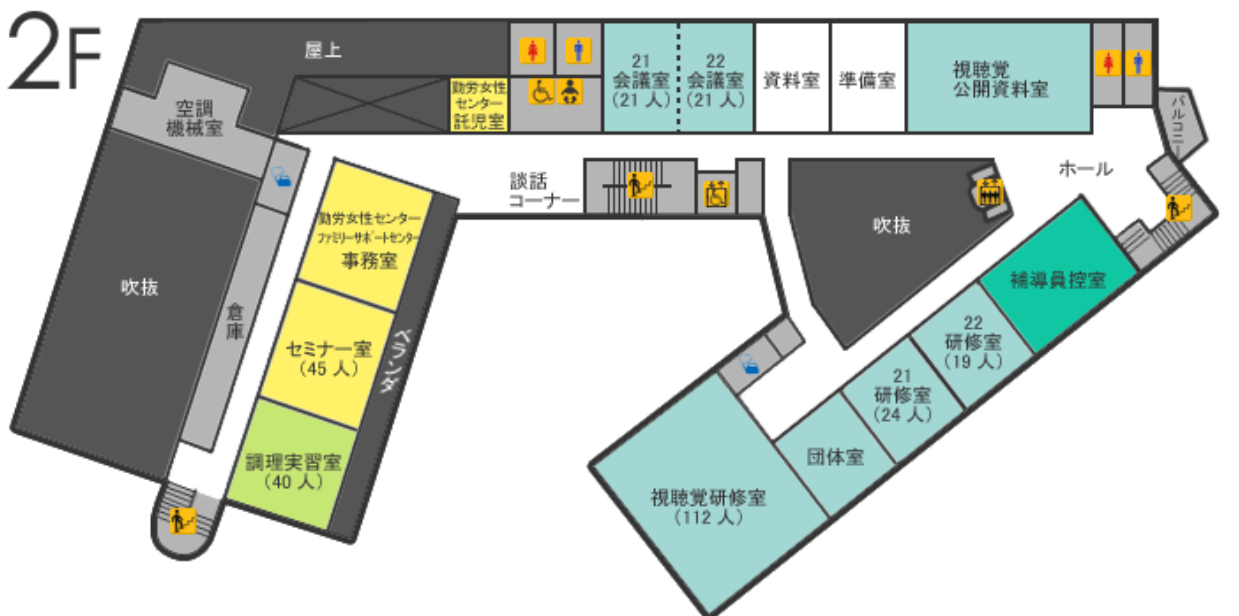
以下のような教育相談研修の充実を図れるように、教育相談研修を小・中学校初任者研修の一部に組み入れるとともに、プラザ相談室相談指導員による講義・実習を行う。

- 市内で教育相談初級技術認定にかかわる講義・実習が受講できる
- 本市の児童生徒の実態を踏まえた講義・実習ができる

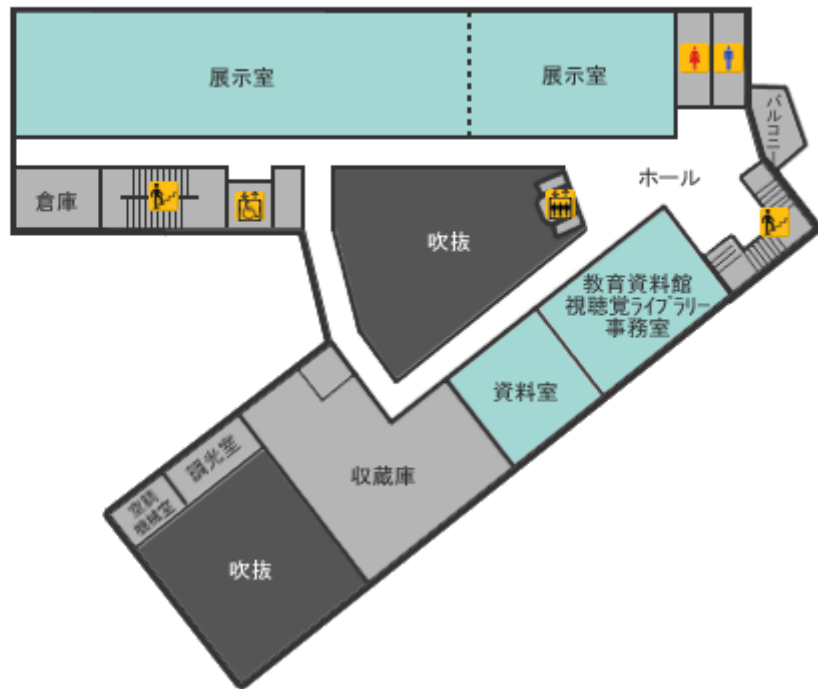
※別添資料参照

# 総合教育プラザ内教育研究所の配置図

設備の案内				
トイレ	多目的トイレ	エレベーター	車椅子兼用エレベーター	階段
公衆電話	自動販売機	まえばしネット	AED	給湯室
学校教育課	市民課	生涯学習課	青少年課	工業課



3F



4F



# 5F



# 6F



## あ と が き

「教育研究所50年のあゆみ」は、平成元年に発刊された「教育研究所30年のあゆみ」に続く20年間の教育研究所の業務と実績について記した記念誌です。

本誌は、前橋市教育研究所創立50年目の節目に研究所長として着任された武居朋子所長のもと、教育研究所にかかわります多くの方々の熱い思いと教育研究所職員等の地道な調査や整理、確認により、20年間の軌跡をもとに編集しました。

編纂を通してこの教育研究所で活躍いただいた方々のお名前や実績を拝見させていただくと、現行教育の礎を築かれた方、難しい教育課題に果敢に挑戦してその解決に糸口をつけられた方、時代の趨勢を超えた教育としての不易をどこまでも追究し具現化された方等を確認することができました。いずれの方々もここ教育研究所で考え、悩み、決断し、汗を流し、そして学校で児童生徒に深くかかわり、活躍しながら実績を残された方々であることに気付きました。私たち編集に携わった後輩としては、心が踊り、胸が熱くなる思いを感じました。今を預かる私たちは、先輩諸氏の実績に甘んじることなく、先輩諸氏が常に高きを望み、遠くを見通し教育実践に取り組まれてきたように、私たちも心を一つに幼児児童生徒のよりよき成長を目指して業務に取り組んでいきたい思いを強く確認することができました。

平成21年度からの本市の中核市移行に伴い、教育行政関係者の多大なるご尽力、ご支援により教育研究所専任職員の増員、予算の拡充等を実施していただき、中核市にふさわしい教育研究所「求知堂」の発足を得ました。教職員の基本的な姿勢、授業力、経営力の計画的な向上を目指して、本市らしい研究・研修を長期展望に立ち、着実に実施していく考えています。

最後に、教育長様をはじめ、市長様、市議会議長様、市小中学校校長会長様方には、公私ともにお忙しいところ貴重な玉稿をお寄せいただき、ここに心から感謝申し上げます、あとがきとさせていただきます。

平成22年2月

関 口 満